

タイトル

○藤田 慎之輔¹ 北九太郎² 北九次郎²

キーワード：キーワード 1 キーワード 2

1 はじめに

これは、2018年現在における「日本建築学会情報シンポジウム」の執筆要領に合わせて藤田が作成した \LaTeX テンプレートです。学内学外問わず自由にご使用いただいて構いませんが、スタイルファイルにはダウンロードパスワードを設けていますので、必要な方は藤田まで直接メールでご連絡ください。パスワードを返信いたします。

2 ファイルの概要

メインファイル, スタイルファイル `jouhou.sty` と, 参考文献ファイル `myrefs.bib` の3つで構成されています. `jouhou.sty` は特に編集の必要はありません. `myrefs.bib` は, 引用する参考文献を適宜編集・追加します.

3 メインファイルの設定

メインファイルからプリアンブルで `jouhou.sty` を呼び出して使用します. 共著者の数に応じて, 本ファイルの `\numofauthors` の数値を設定します. 共著者の所属の数に応じて, 本ファイルの `\numofaffs` の数値を設定します.

`\authorA{○○}~\authorE{○○}`の部分に著者名を記入します. 著者の数は, `\numofauthors` の数と一致させておく必要があります. 例えば, `\authorA~\authorE` までの5人の著者を記入していたとしても, `\numofauthors` の数が2であれば, `\authorB` までしか出力されません. 6人以上の共著者がいる場合には, `jouhou.sty` の修正が必要です.

`\thanksA{○○}~\thanksE{○○}`の部分には著者名の英語表記を記入します. こちらも, 著者の数は, `\numofaffs` の数と一致させておく必要があります. 例えば, `\thanksA~\thanksE` までの5人の著者を記入していても, `\numofaffs` の数が2であれば, `\thanksB` までしか出力されません. 6人以上の共著者がいる場合には, `jouhou.sty` の修正が必要です.

`\keywords{○○}`の部分にはキーワードを記入します.

`\paperNo{○○}`には, 報告 or 論文の種別と, 主催者から送られてくる番号を記入します.

4 図の引用

通常通り，figure 環境で引用すればよいです。

5 参考文献の引用

参考文献の引用には，参考文献ファイル myrefs.bib を使用しています。myrefs.bib にたくさんの文献データを登録していても，実際に参考文献として出力されるのは，\cite{} によって実際に引用した文献のみであるので，自分が良く引用する論文は逐次参考文献ファイルに蓄積しておく，いろんな場面で使用できて便利です。参考文献は，引用された順に出力されます。

参考文献ファイルの書き方について知識がない人は，例えば

<http://akita-nct.jp/yamamoto/comp/latex/bibtex/bibtex.html>

<ftp://blackknight.ics.nara-wu.ac.jp/pub/doc/bibtex.pdf>

などのウェブサイトが参考になります。

例えば，myrefs.bib に

```
@article{fujita_ajj_2009,  
author={藤田 慎之輔, 大崎 純},  
title={ひずみエネルギーとパラメトリック曲面の代数  
不変量を考慮したシェルの形状最適化},  
journal={日本建築学会構造系論文集},  
year={2009},  
volume={74},  
number={639},  
pages={857--863}  
}
```

のように記載されている場合には，文献を引用したい文章の途中で \cite{fujita_ajj_2009} を挿入することで文献¹⁾が引用されます。一度引用した文献は，末尾の section に生成される参考文献の欄に引用順に随時出力されます。

[参考文献]

- 1) 藤田慎之輔, 大崎純. ひずみエネルギーとパラメトリック曲面の代数不変量を考慮したシェルの形状最適化. 日本建築学会構造系論文集, Vol. 74, No. 639, pp. 857-863, 2009.

1 北九州市立大学国際環境工学研究科, 講師, 博士 (工学)

2 北九州市立大学国際環境工学研究科, 大学院生